

# 1 そのとき障害者は

『みんなのねがい』は、みんながつながり学び合う雑誌です。  
『みんなのねがい』は2011年5月号の誌面を急遽変更し速報  
「東日本大震災―そのとき障害者は」を掲載しました。  
続いて6月号では「いまつながろう―東日本大震災」を緊急特集  
しました。



## I 1 《速報》

# 東日本大震災

―そのとき障害者は―



《鷺見俊雄・全障研宮城支部長・仙台市若葉区》

[3月11日(金) 15時すぎ]

☎(ケガしていない?)「だいじょうぶ」(今どこですか?)「アパートで一人にいる。でも余震がひどい。停電している。携帯が繋がらない」

テレビをつけ、尋常ではない事態を知り、宮城の鷺見俊雄支部長に電話。携帯からも固定電話からもつながらず…。阪神淡路大震災のときのことを思い出し、公衆電話に走り、ようやくつながりました。とにかく、身を守ってそこにいるように、また連絡しますと伝え、電話を切りました。

[3月13日(日) 8:14]

☑E大丈夫です。今妹の家にいますよ

携帯が繋がらず、無事を確認するために送ったメールへの返事。

[3月14日(月) 15:25]

☑E今大きい余震がありました。余震と津波がとても怖いです。他の人の情報、状況がわからないのでとても心配です

▲避難した妹さんの家で撮影(14日のメールで)

八反田史彦さん(宮城県・障害児学校教員、全障研宮城支部事務局)  
三月二十五日のメール  
★みなさん、ご心配ありがとうございます。  
すごい揺れでした。もちろん経験したことのない揺れです。自宅にいた僕は、本棚の突っ張り棒がはずれて飛んでしまい、ずっと押さえていました。部屋の中はほとんどのが本が散乱し、むちゃくちゃになりました。  
利府支援学校の学区には、塩竈、多賀城、七ヶ浜、松島といった津波の被災地があります。子どもたちの安否確認のため昨日、今日と出勤できた先生たちが車で走り回りました。医療的ケアの子ども宅に燃料や水を届けにいった先生もいます。今日の段階でまだ二〇人くらいの子とも連絡がとれません。家庭訪問をして、家がなくなっている家庭もあったとのことでした。先生の中でも、東松島市在住の二人と連絡がとれません。避難

現地から全障研全国事務局に届けられた声をご紹介します。